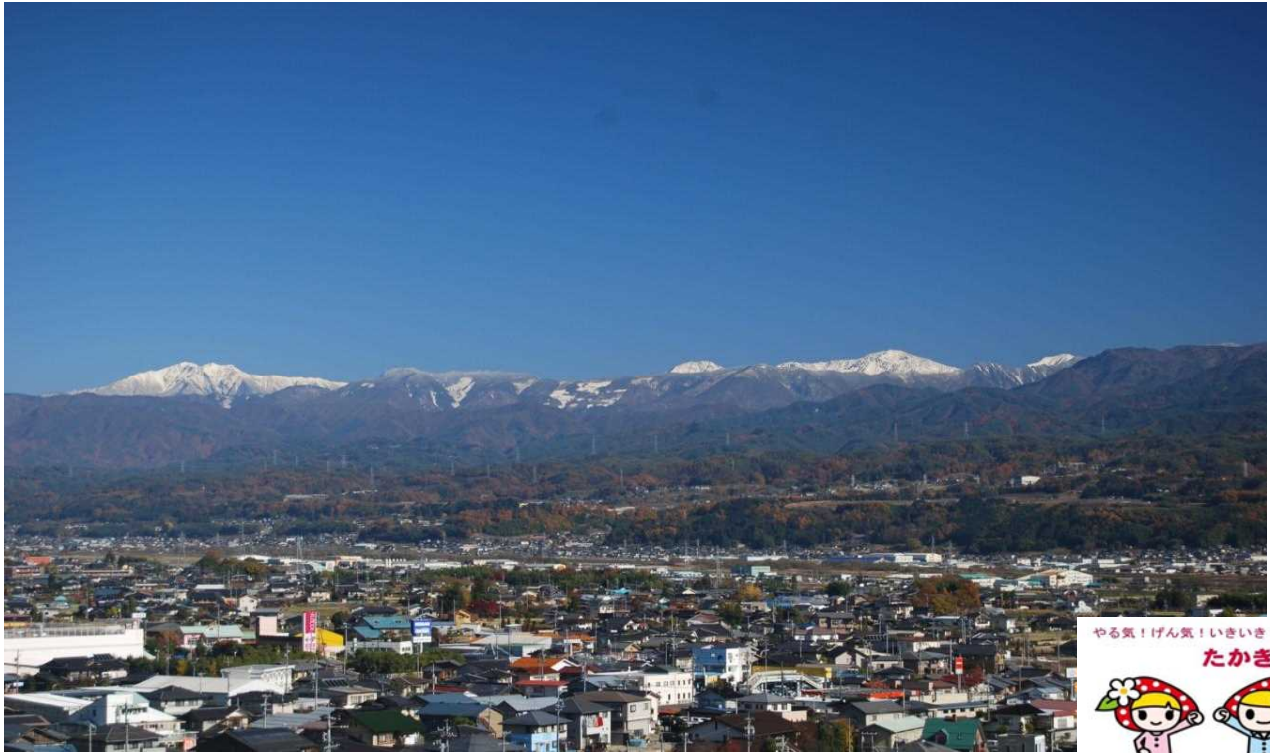


長野県 喬木村のICT教育環境整備構想



2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会自治体発表

たかぎむら

喬木村の概要

村発足140年



明治8年に5か村が合併して発足。長野県の南部（南信州）に位置し、伊那谷を流れる天竜川が悠久の流れの中で形作った日本最大規模と言われる河岸段丘の上にある。近接する飯田市にはリニア中央新幹線長野県駅設置が決定し、H26年にはアジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区に指定され、産業集積、産学官金連携による取組が本格スタートしました。

喬木村人口	6,581人	平成27年9月30日現在
男性	3,219人	
女性	3,362人	
世帯数	2,153世帯	

公立保育園	3園うち小規模1園	園児数	210名
公立小学校	2校うち小規模1校	児童数	372名
公立中学校	1校	生徒数	219名

喬木村の紹介



イチゴ狩り観光



児童文学者 椋 鳩十 生誕の地
「大造じいさんと雁」「母と子の20分間読書」



伝統工芸品 阿島傘(和傘)



喬木村の観光農業



松茸観光



りんご狩り

ブルーベリー狩り



観光栗園



さくらんぼ狩り

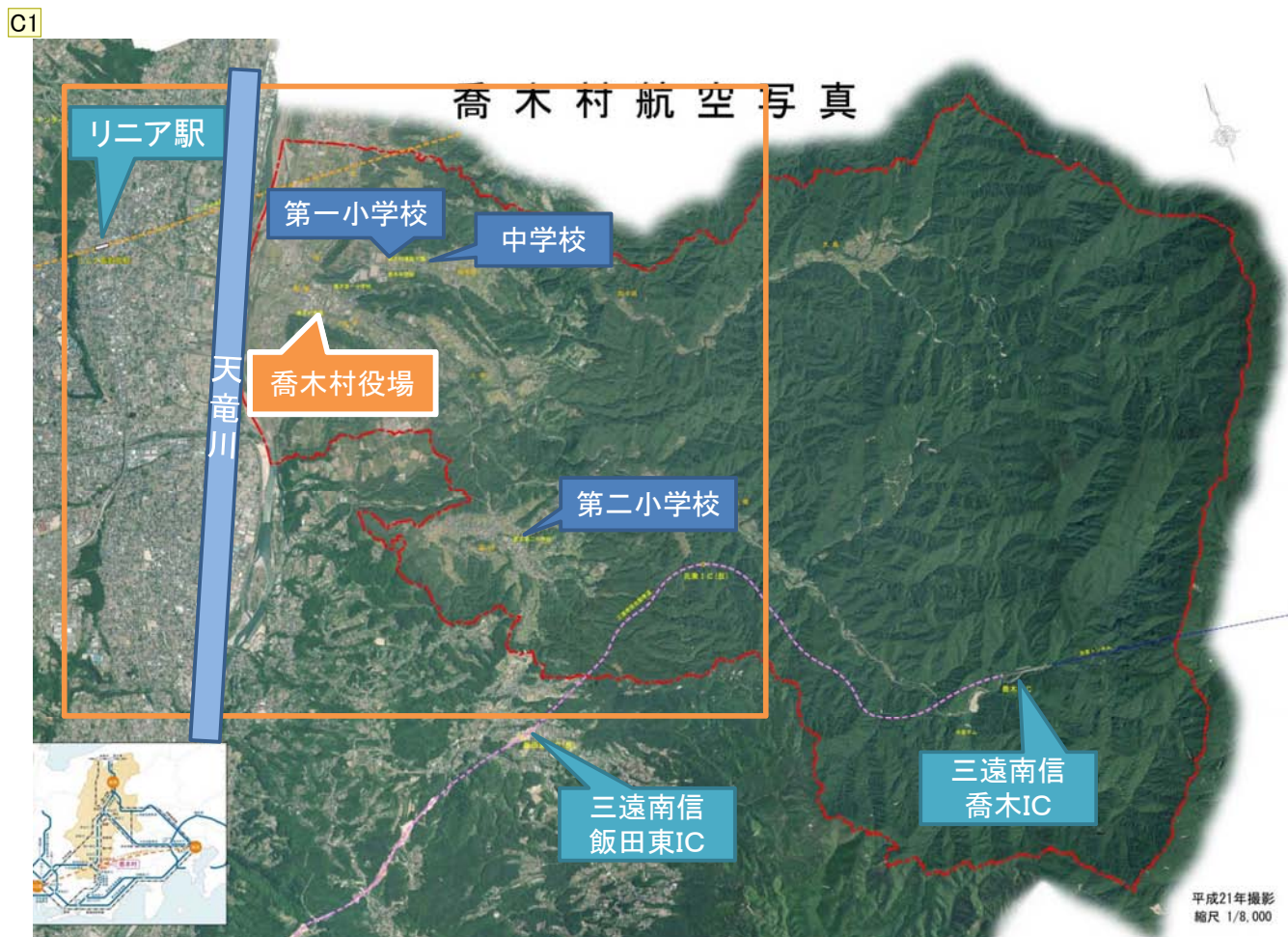


何故、喬木村でICT教育環境整備？

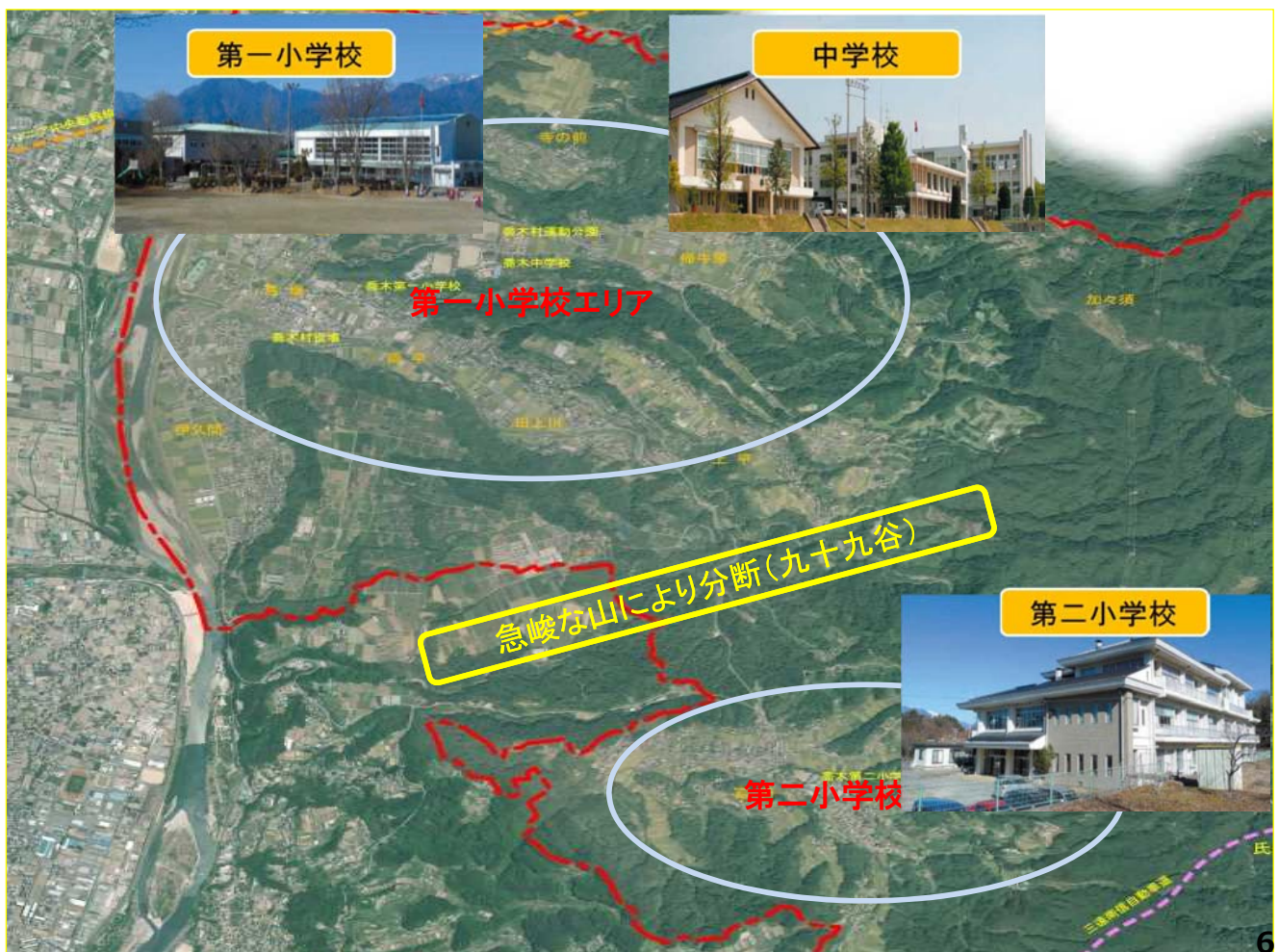
・
・
・

小規模校消滅の危機

4



5



喬木第一小学校の特色ある体験活動

～ 伝統工芸品和傘「阿島傘づくり体験」の様子 ～



7

喬木第二小学校の特色ある体験活動

～ 信州諏訪太鼓「銀嶺太鼓」取組の様子 ～



8

喬木第二小学校の特色ある体験活動

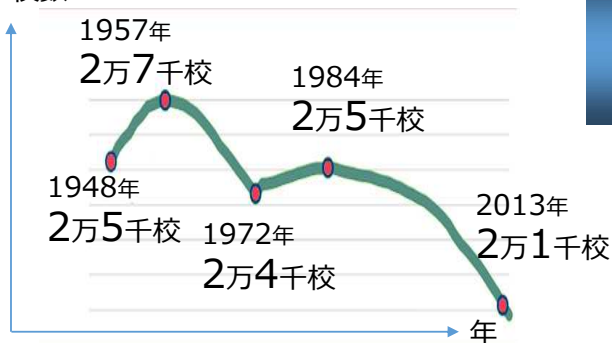
～ 山学習「松茸山」取組の様子 ～



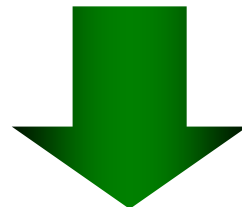
9

■ 人口減少社会の課題 (中山間地域が抱える課題)

全国の小学校数の推移
学校数 文部科学省の資料から



人口減少社会



地方消滅・地域の縮小

学校規模の縮小・統廃合

10

小中学校統廃合:1学年1学級以下は検討を 文科省手引案

公立小中学校の適正規模・配置に関する手引案の骨子 新たに示した内容

〈学級数〉

小学校 6学級以下

中学校 3学級以下

**統廃合の適否を
早急に検討**

検討の際は学級数だけでなく児童生徒数も考慮する
標準学級数は12～18

〈通学の距離〉

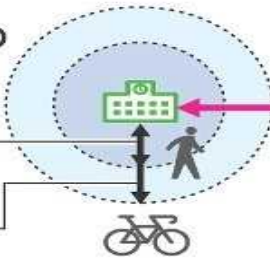
徒歩や
自転車での
通学距離

小学校

4^{キロ}以内

中学校

6^{キロ}以内



**通学時間
1時間以内**

平成27年1月20日 毎日新聞

11

人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業

平成27年度予定額 142百万円(新規)

課題・背景

我が国の人口減少が加速化することが確実視されている中、将来的に全国各地において現行の学校規模を維持することが困難な人口過少地域が増加することが予想されている。併せて、社会教育においても同様に地域人材が不足しており、今後、そのような地域における教育水準の維持向上が課題となることが予想される。【在学者数推移(小・中・高) 昭和23年 約1,677万人 昭和60年 約2,263万人 平成25年 約1,356万人】(学校基本調査より)

事業概要(イメージ)

過疎化や少子高齢化が進む人口過少地域において、ICTの活用により、遠隔地間における児童生徒の学びの充実や、社会教育施設等と連携した遠隔講座の実施など、学校教育及び社会教育における教育の質の維持向上を図るための実証研究を実施する。(3年間)

〈学校教育におけるICTを活用した実証研究〉

(小中等 9地域)

遠隔地間における双方向型の
協働学習や合同学習を実施



小規模学校

学校

人口過少地域の学校教育の維持向上を図るため、指導方法の開発や教育効果の在り方などに関する実証研究を実施

〈人口過少地域におけるICTを活用した社会教育実証研究〉

(3地域)



人口過少地域の社会教育の維持向上と地域コミュニティの活性化を図るため、ICTを活用した社会教育の実証研究を実施

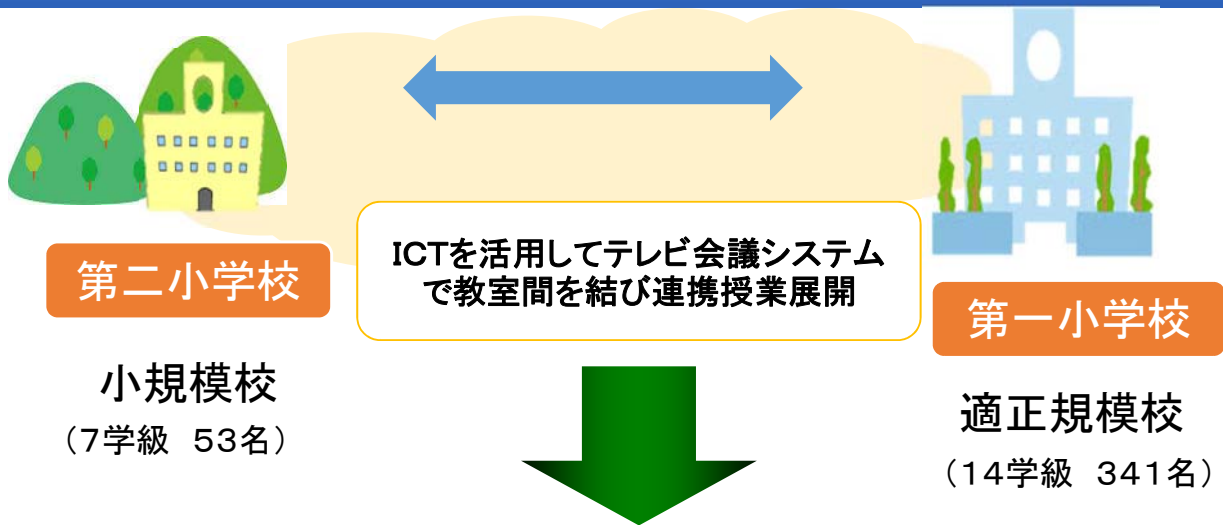
小規模学校における学びの質の維持向上

人口過少地域における社会教育の質の維持向上

人口過少社会における学校教育及び社会教育の質の維持向上
地域コミュニティ機能の存続及び活性化

12

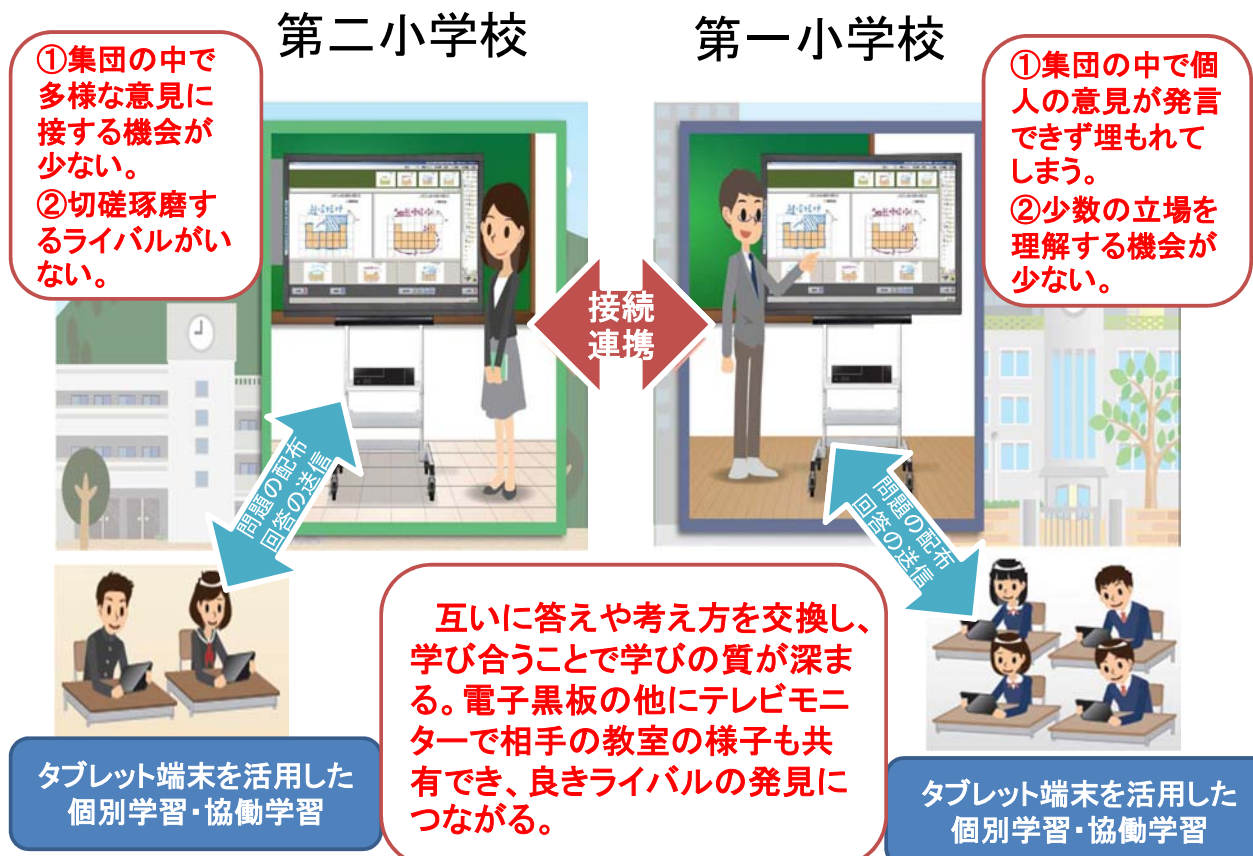
遠隔地間における双方向型の一斉学習・協働学習の実現により課題解消



ICTを活用して**統合せずに**小規模学校における学びの質の維持向上を図る

日本の「中山間地域が抱える人口減少課題克服モデル」を実証します

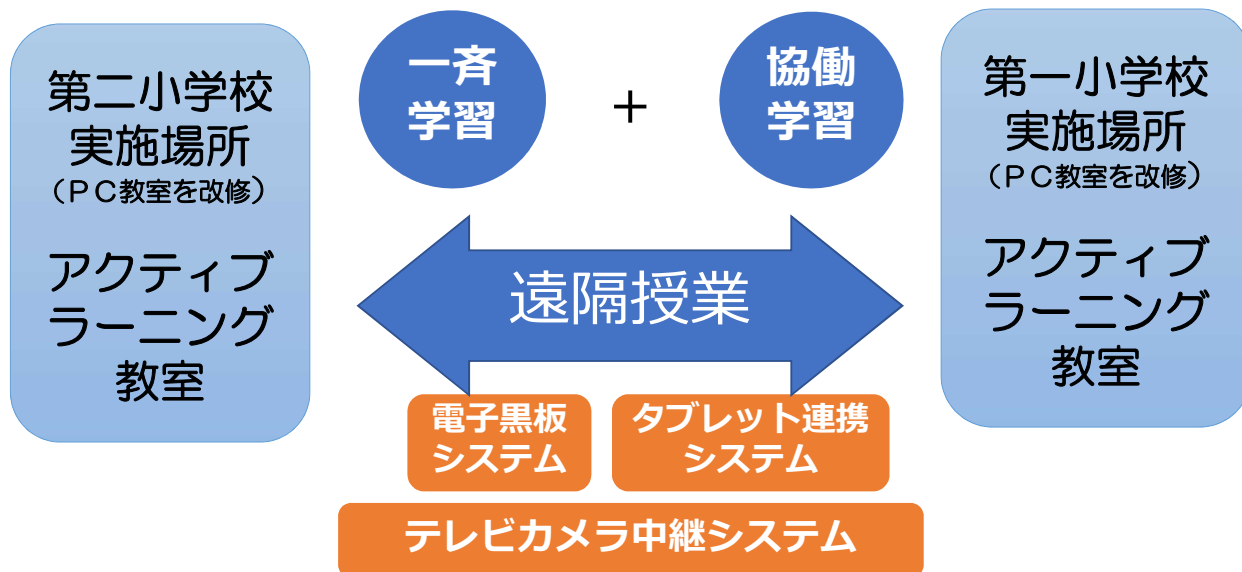
13



14

遠隔クラスルーム・コラボレーション

(互いに相手の表情や考えている姿が見える・声が聞こえる)



4年生を中心にコンピュータールームで授業を遠隔で行いますが、他学年の児童も遠隔授業を行います。

15

小学校コンピュータールーム【改修前】



16

【アクティブラーニング教室を整備】



可動式ひとり机・椅子
遮光カーテン
ホワイトボード壁面
可動式ホワイトボード掲示板
電子黒板・タブレット

17

ICTを活用した授業(アクティブラーニング教室)



18

遠隔合同・協働学習の様子

平成27年12月18日実施 公開研究会



19

遠隔連携による同級生・小中連携 (中1ギャップの課題解消を図る取組)

第二小学校

遠隔接続

第一小学校



友だちは
沢山できる
かな？

遠隔
接続



喬木中学校

勉強は難しい
かな？
生徒会は何を
するのか？

遠隔
接続

一人1台タブレット端末導入 H27 220台

20

これまでの成果

【児童】

- 相手校の児童の発言の様子が映し出された画面を食い入るように見るなど、集中して主体的に、意見を聞く姿が見られるようになった。
- 電子黒板に表示された相手校の児童の解き方の中から自分に参考になるものを探して、ヒントとして活用する姿が見られるようになった。
- 多くの友だちに自分の考えを的確に伝えられるよう、要点を整理しながら発言できるようになった。
- 自分たちでタブレット端末の扱い方のルールを作るなど、ICT機器を適切に使えるようになった。

【先生】

- 小規模校だけでなく、中規模校の教員も、遠隔合同授業を行うことにより、相手校の教師と指導方法について研究するなど、自らの指導について見直す機会が増えた。
- 小規模校の子どもでも、友達100人できるかな？が実現できる可能性を感じた。

【保護者】

- 公開研究会にも保護者が見学に来るなど、ICT活用教育に対し関心を持ち、期待を寄せている。

21



教育環境整備を喬木村の地方創生の切り札に！！

22

地方創生を見据えた基本目標

■リニア中央新幹線／三遠南信自動車道の開通を見据えた村づくり

- 喬木村における安定した雇用を創出する
村の特性を活かした競争力の高い産業の育成と雇用の創出
- 喬木村への新しい人の流れをつくる
移住と二地域居住、**ICTを活用した魅力ある教育環境**など、“合わせ技”による人の流れの創出
- 結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現しやすい環境を整える
子育て世代の仕事と家庭の両立への積極的支援
- 地域の活力を確保し、安心な暮らしを守る、時代に合ったむらづくり
誰もが安全に安心して暮らせる生活環境整備と小さな拠点の形成を中心とした時代に合ったむらの形成

豊かな未来への創造 ～魅力のある地域・“夢”のある村～

23

財源と取組状況

**地方財政措置は講じられているものの
小規模自治体の財政状況は硬直化して
おり大規模な投資が困難な状況にある**

- ①文部科学省実証事業に公募
- ②喬木村ふるさと納税を活用
- ③地方創生交付金を活用
- ④文部科学省補正補助事業の活用申請

①文部科学省実証事業に公募

平成27年度「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」の採択を受け機器整備。小規模校が統合しないで教育の質の維持向上を図る。

【小学校に遠隔合同授業システムを整備】

【単独分と併せて小規模校に1人1台タブレット整備】

【単独分と併せて中規模校6人に1人タブレット整備】

25

②喬木村ふるさと納税を活用

平成27年度ふるさと納税の財源を教育環境整備に活用。

【小学校にアクティブラーニング教室を整備】

【中学校へタブレット端末（220台）整備】

③地方創生補助金を活用

平成27年度 総務省地方創生事業タイプⅡの財源を教育環境整備に活用。

【中学校の普通教室・特別教室に電子黒板を整備】

【中学校デジタル教科書を整備】

26

④文部科学省補正補助事業の活用申請

平成27年度補正 文部科学省「学校を核とした地域力強化プラン」事業補助金に申請。学習の遅れがちな児童・生徒、不登校児童・生徒対策としてタブレット端末を整備予定。放課後、土曜日を活用した学習支援を行う。

【次世代交流施設：こども学遊館にタブレット30台、学習ソフトを整備予定】

27

喬木村ICT機器（ハード）整備状況

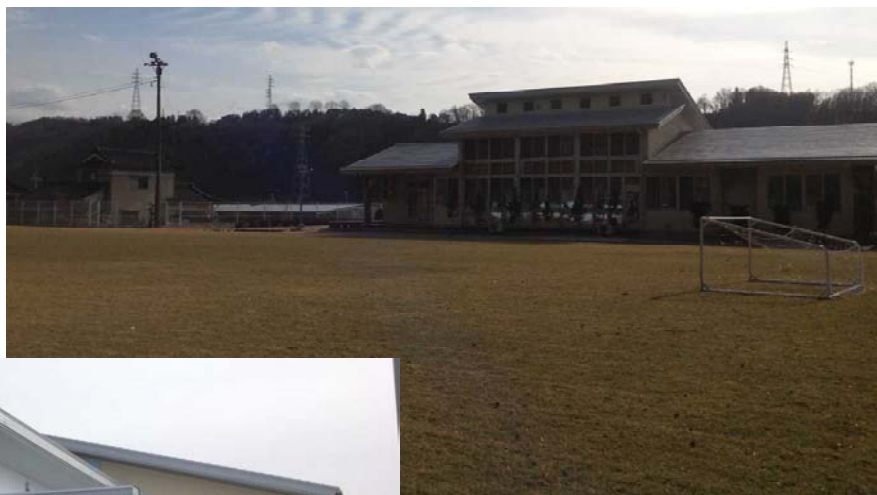
	平成27年度	平成28年度
①喬木第一小学校		
・遠隔合同授業システム	1式	
・児童用タブレット端末	55台 (5.8人に1台) →	<u>2人に1台</u>
・電子黒板	3台 (2学年に1台) →	各学年に1台
②喬木第二小学校		
・遠隔合同授業システム	1式	
・児童用タブレット端末	40台 <u>(1.3人に1台)</u>	
・電子黒板	3台 (2学年に1台) →	各学年に1台
③喬木中学校		
・生徒用タブレット端末	220台 <u>(1人に1台)</u>	
・教師用タブレット端末	15台 (1人に1台)	
・電子黒板	10台 (全普通教室、特別教室3台)	

28

放課後・土曜日を活用した学びの 機会の提供

芝グラウンド

次世代交流施設
こども学遊館



29

1階プレイルーム



1階学習室



2階学習室

30

2027年リニア中央新幹線開業予定
～東京へ50分・名古屋へ30分～



2020年代三遠南信自動車道開通予定
～浜松へ90分～

リニア中央新幹線(長野駅まで2kmのアクセス)
全国でも珍しい地上からリニア車両が見える



日帰り交流圏（飯田市）

飯田駅又はリニア県内駅を起点として、鉄道、バス、飛行機により、各都道府県庁所在地の主要駅まで概ね3時間以内に到達できる都道府県

【現状（平成24年）】

6都道府県



【将来】

25都道府県



※ 北陸新幹線（長野～敦賀間）延伸後、
リニア中央新幹線（東京～名古屋間）開業後

資料：県企画部交通政策課

33

リニア中央新幹線開通まであと12年
今から広い視野に立つ次代のリーダー育成
に取り組む必要性

教育による地方創生を目指します
田舎でも都会と変わらない教育環境を整備して
自治体の魅力化アップを図ります



U・I・Jターンによる人の流れをつくり定住
人口の増大に繋げたい

34

第二小エリアに若者定住住宅整備

9戸供用開始 H27 7戸建設



富田地域優良賃貸住宅施設事業設計コンペ設計図面

市田柿

長野県の市田柿産地で誕生した市田柿。ひとつひとつ丹精こめることにより自然に白い粉をまとった貴重な柿は、数ある平柿の中でも芸術品といわれています。

【27-A06】
JAおんまがらみ
市田柿桐化化粧箱
厳選大粒20粒

※画像はイメージです。実際の商品とは異なります。価格も異なります。

実際に訪れて、喬木村の自然・名物を体感してみませんか？

いちご狩り
1月中旬～5月下旬

ブルーベリー狩り
7月下旬～7月下旬

りんご狩り
11月上旬～11月下旬

【27-B18】
いちご狩り・ブルーベリー狩り・りんご狩り
共通招待券+いちごジャム

【27-B19】
先着予約受付中
矢野こんにゃく 手作り体験

信州くりん豚

喬木村の村産である「くりん豚」にちなんで名づけられた「信州くりん豚」。ほのかに甘い香りと、非常にあっさりとした食感が特徴です。しっかりと火を通しても肉が固くならず、豚身が柔らかくても食べられると評判です。

【27-B11】
信州
信州くりん豚
まんぷくセット

五平餅

飯田下伊那地方の郷土食。五平餅。ここ喬木村では丸型をふたつ並べたお餅が一般的です。村で唯一の五平餅専門店「竹や」よりふるさとのお味をお届けします。

【27-B12】
竹や五平餅店
五平餅55本

中村さんのたまご

喬木・城所地区のすぐらしい環境の中で、鶏にストレスがからないうちに育てています。市内の鶏卵産出団体が2年連続受賞。中村さんは県内では数少ない専業養鶏に励むお母さんです。

【27-A07】
たまご食べ比べセット

やる気！げん気！いきいき！
たかぎ！！

ベリー&ゴー

ご静聴有り難うございました